



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 8 (R7. 1. 28)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



田尻小学校 創立64年目に向かって ～よつわの由来と願い～

校長

新年あけまして、おめでとうございます。ご挨拶が遅れましたが、本年も田尻小学校の教育活動へのご支援をお願い申し上げます。

令和7年、へび年がスタートしました。今年は、へびのように知恵深く、粘り強く教育活動を進めていきます。また、へびは皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる様子から、時代の変化に即しながら、より地域に愛される田尻小を目指して、子どもたちとともに全教職員で力を合わせて、笑顔と思いやりをもって、実りある一年にしていこうと思います。

新春にあたり、田尻小学校の歴史を振り返るべく、50周年記念誌を覗いてみました。「よつわ」の由来は、4つの学校が統合されたことから4つの輪をもとにつくられた言葉であったと記載してあります。1962年、「安田小学校(286名)」「田尻小学校(188名)」「平井小学校(144名)」「鏡里小学校(117名)」が一つになりました。独立した4つの学校が統合して新しい学校ができたことは、柏崎市としてだけでなく、全国的でも初めてのことであったと記録がありました。児童数735名の大きな学校として誕生したのです。この紙面の一番上にある校章も図案の募集をしたそうです。その中で、当時の教頭であった石塚時男先生が考えたものが採用されました。4つの学校を意味する4つの輪、どこの学校か分かるように、大きく田尻の文字を入れ、小学校の「小」という漢字も小さく描かれています。この校章を考案した石塚先生は、4つの学校(4つの輪)がそれぞれの良さを持ちながら、重なり合い、いつか大きな一つの輪(和)に向かっていくイメージを想像して作ったようです。

校門をくぐってすぐの駐車場に、「よつわ」の像が立っています。創立20周年の際に、前沢慶治様より寄贈いただいた像と記されています。彫刻家金子直裕様(日展入選27回)に依頼し、制作いただいたとあります。「よつわ」像は、田尻の子どもたちへのメッセージが込められています。20周年記念誌に、「力と心と声を合わせ、未来にむかってたくましく生きていこう」と制作の願いが記述されています。

「よつわ」像は、高学年の男児と低学年の女児が二人で立ち、空をしっかりと見上げ、力強く指さしながら、田尻小学校の全ての子どもたちを励ましてくれているように感じます。

年頭にあたり、改めて田尻小学校の歴史、風土、地域・保護者・教職員の願いを大切に、新たな1ページを皆様と共に進めてまいりたいと思います。

